

スロータウン映画祭 20年の歩み



完成した「とよはしまちなかスロータウン映画祭20周年記念誌」。左は映画祭実行委員会の石川誠会長＝豊橋市役所

豊橋 実行委が記念誌

豊橋市で2002年に始まった市民主体の映画祭「とよはしまちなかスロータウン映画祭」の20周年記念誌「まちなかシネマ」これまでとコレカラトクⅡ」が完成した。映画祭の実行委員会が作成した。映画祭の歩みや、その内容のほか、かつて東三河地方にあった映画館がくまなく紹介されている。

映画祭は開始当初、豊橋青年会議所（JC）が、中心市街地活性化事業として企画した。

市内にはかつて10軒を超える映画館があったが、01年に最後の1館が閉館した。豊橋JCは、まちなかに人を呼び込み、にぎわいを取り戻そうと、閉館していた映画館2館を会場にして映画祭を開催。すると、5日間で6千人近くが来場す

るほどの反響があった。継続を求める声を受け、市民有志による実行委員会が発足し映画祭は続けられた。

これまで324作品を上映し、8万9千人超の有料入場者を記録している。豊橋のスクリーンで楽しめたい名作や、ミニシアター系の作品などを上映するほか、故榎木希林さんや、三浦友和さんら著名な俳優をゲストに招いたイベントも

上映作品や俳優のコメント掲載

企画している。記念誌では、過去20年間の上映作品やゲスト、イベントの概要などを詳報。さらに、俳優の宮本信子さんや佐藤浩市さん、役所広司さんら、ゲストとして豊橋を訪れた俳優、映画監督から寄せられた祝福のコメントも掲載している。

東三河にかつてあった映画館の紹介は記念誌の目玉の一つだ。豊橋市だけでなく、豊川、田原、蒲郡、新城の各市にあった映画館を写真つきで載せている。

記念誌は市販しておらず、豊橋市中央図書館など公共図書館4館で閲覧できる。

実行委は今日21日、浅井由崇市長を表敬訪問し、記念誌の完成を報告した。映画祭の今後について、実行委員会の石川誠会長は取材に対し「東三河のまちづくりに少しでも貢献できるような存在でありたい。できる限り継続できればと考えている」と話した。

豊橋市まちなか図書館（駅前大通2丁目）では記念誌の刊行を記念し、29日～5月22日、展示会「昭和から平成 まちなか映画館」あの日あの時「展」を開く。当時の広告やポスターなどを展示する。無料。

（戸村登）